

技を映す

— 民俗研究映像の試み —

～ 筆記近代誌を例に～

国立歴史民俗博物館では、民俗研究の一端として、映像による民俗誌の製作を毎年続けている。これは日本各地の貴重な民俗事象を映像によって調査・記録し、それを通して文字や写真以外の手法による調査方法を開発し、研究を推進しようとするものである。そのなかでも今回は、万年筆に焦点をしばり、その製作・調整・修理にまつわるさまざまな技を映像によって記録した『筆記の近代誌—万年筆をめぐる人びと—』(本篇52分・列伝篇99分)を上映する。そしてその製作意図、準備過程、撮影現場、編集構成などについて適宜、解説を加えながら、職人技を記録する意義と映像を用いた民俗研究の可能性とについてお話してみたい。

コーディネーター： 林 雅彦 法学部教授

日時： 11月11日(金)5時限16:20～17:50

会場： 和泉キャンパス リエゾン棟 L2教室

講師： 小池 淳一氏 国立歴史民俗博物館准教授
(こいけ じゅんいち)

【講師プロフィール】

1963年生まれ。筑波大学大学院博士課程単位取得退学。
弘前大学講師，助教授，愛知県立大学助教授を経て，2003年より現職。
専門は民俗学。
主な業績に『伝承歳時記』(2006年，飯塚書店)，
『民俗学的想像力』(編，2009年，せりか書房)，
『陰陽道の歴史民俗学的研究』(2011年，角川学芸出版)などがある。

予約不要： 学部生の受講可

学外の方も受講可能です。
事前にお電話ください。
教養デザイン研究科：TEL:03-5300-1544